

奈良国立文化財研究所概要



1982

目 次

沿革付年表	1
組織	2
機構	2
定員	2
役職職員	3
予算	3
歳出予算	3
科学研究費補助金	3
施設	4
土地及び建物	4
事業	5
建造物研究室	5
歴史研究室	5
半城宮跡発掘調査部	6
飛鳥藤原宮跡発掘調査部	7
飛鳥資料館	8
埋蔵文化財センター	9
普及活動	10
公開講演会	10
現地説明会	10
刊行物	10
蔵書及び資料	12

沿革

奈良国立文化財研究所は、文化財保護委員会（現、文化庁）の附属機関として文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行うことを目的として昭和27年4月奈良市春日野町50番地に設置された。設立の発端は、吉田茂首相が奈良県視察の際、南都諸大寺に伝わる文化遺産のすばらしさを目のあたりにし、これらの文化財を保護宣揚するため、現地における美術学校又は美術研究所設置の構想をもたれたことによるといわれ、当初は、美術工芸研究室、建造物研究室、歴史研究室、庶務室の4室で発足した。

その後、昭和35年10月には平城宮跡発掘調査事務所（現、平城宮跡発掘調査部）、昭和45年4月には飛鳥藤原宮跡調査室（現、飛鳥藤原宮跡発掘調査部）が、さらに昭和48年4月には飛鳥資料館、昭和49年4月には埋蔵文化財センターの設置をみて今日に至っている。

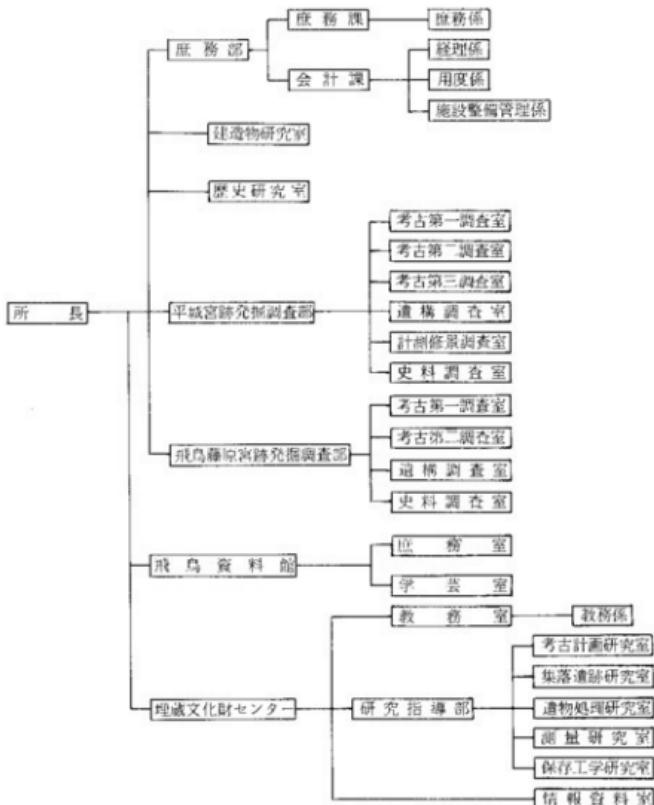
年表

昭和26.10. 6	奈良文化財研究所設置準備規程（文化財保護委員会裁定第11号）により設置準備会発足
27. 4. 1	文化財保護委員会の附属機関として奈良文化財研究所（庶務室、美術工芸研究室、建造物研究室、歴史研究室）設置
29. 7. 1	奈良國立文化財研究所と改称
35.10.15	平城宮跡に発掘調査事務所設置
36. 9. 16	庶務室は庶務課となる。
38. 4. 10	平城宮跡発掘調査部が設けられる。
39. 4. 1	同調査部に第一～第三調査室、保存整理室、史料調査室を置く。
40. 4. 1	同調査部に新たに第四調査室を置く。
43. 6. 15	文化庁発足、その附属機関となる。
45. 4. 15	平城宮跡資料館開館
45. 4. 17	平城宮跡発掘調査部の組織を考古第一～考古第三調査室、造構調査室、計測修景調査室、史料調査室、飛鳥藤原宮跡調査室と改める。
48. 4. 12	会計課、飛鳥藤原宮跡発掘調査部（第一調査室、第二調査室）、飛鳥資料館（庶務室、学芸室）設置
49. 4. 11	庶務部（庶務課、会計課）、埋蔵文化財センター（教務室、考古計画研究室、測量研究室）設置
50. 3. 15	飛鳥資料館開館。
50. 4. 2	埋蔵文化財センターに研究指導部設置。同部に遺物処理研究室新設
51. 5. 10	埋蔵文化財センター研究指導部に集落遺跡研究室新設
52. 10. 1	埋蔵文化財センター研究指導部に保存工学研究室新設
53. 4. 5	飛鳥藤原宮跡発掘調査部の組織を考古第一調査室、考古第二調査室、造構調査室、史料調査室と改める。
53. 10. 1	埋蔵文化財センターに情報資料室新設
55. 4. 5	美術工芸研究室を奈良國立博物館（仏教美術資料研究センター）に移換
55. 4. 26	府舎移転（奈良市二条町）、併せて平城宮跡発掘調査部、埋蔵文化財センターを府舎に統合

組 構

昭和57年4月1日現在

機 構



定 員

区分	指定職	行政職(一)	行政職(二)	研究職	計
人員	1	22	6	66	95

役職職員

所長	坪井清足					
庶務部 部長 森春見	庶務課長	二管	森山	武保	雄美	靖
建造物研究室	室長	吉	田			
歴史研究室	室長事務取扱	坪井	清	足		
平城宮跡部 発掘調査部	部長 同田英男	考古第一調査室 考古第二調査室 考古第三調査室 考古構造調査室 考古遺跡調査室 考古資料調査室	長長長長長長 長長長長長長 長長長長長長 長長長長長長 長長長長長長 長長長長長長	工森山宮田鬼 樂本本中頭 善都忠尚哲清 通夫一郎雄明 通夫尚哲清 通夫一郎雄明		
飛鳥藤原宮跡部 発掘調査部	部長 狩野久	考古第一調査室 考古第二調査室 考古構造調査室 考古遺跡調査室 考古資料調査室	長長長長長長 長長長長長長 長長長長長長 長長長長長長 長長長長長長	佐木細加 藤下見藤尾熊 興正啓 重基	治史三優 德勝	
飛鳥資料館	館長 坪井清足	庶務室 字芸	室長 長長	中猪		
埋蔵文化財センター	センター長 田中琢	教務室 情報資料室	長長	若岩	井本 次	明郎
研究指導部	部長 佐原真	考古計画研究室 考古遺跡研究室 考古遺跡處理研究室 考古測量研究室 考古保存工学研究室	長長長長長長 長長長長長長 長長長長長長 長長長長長長 長長長長長長	松町沢木安 沢田全原 正敬啓	生草 正敬啓 生草附註示	

予算

歳出予算

(単位 千円)

区分	55年度	56年度	57年度(当初)
人件費	398,830	417,384	442,502
運営費	580,298	605,203	630,164
施設費	359,445	305,877	330,675
臨時的経費(年会統合)	49,514	29,600	0
計	1,388,087	1,358,064	1,403,341

科学的研究費補助金

()書きは件数 (単位 千円)

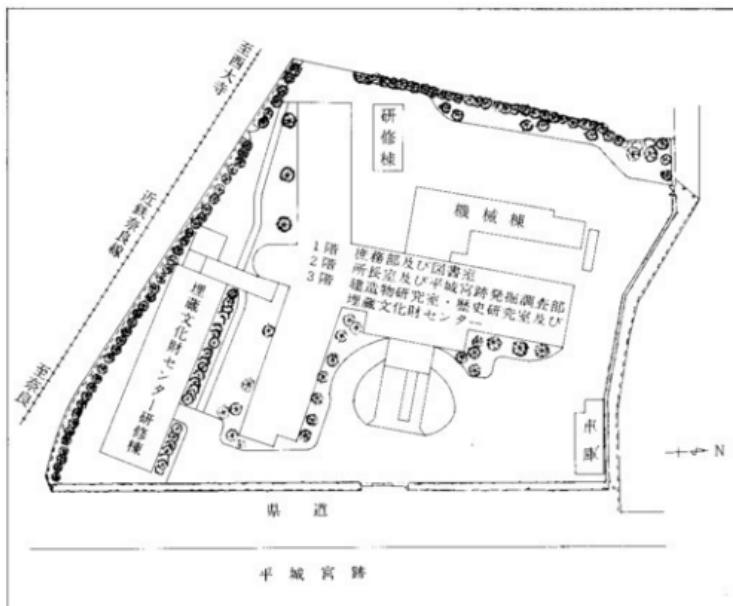
区分	54年度	55年度	56年度
特定研究(A)		(3) 13,000	(1) 12,000
一般研究(A)	(1) 19,000	(1) 6,000	(1) 800
(B)	(1) 3,000		(2) 5,700
(C)	(5) 5,080	(4) 2,300	(4) 3,760
(D)	(4) 1,760	(2) 920	
奨励研究(A)	(7) 4,600	(4) 3,100	(7) 5,460
試験研究(B)			(1) 4,930
計	18 33,440	10 25,320	19 32,650

施 設

昭和57年4月1日現在

土地及び建物

名 称	土地面積	建 物 面 積		備 考
		建面積	延面積	
本館	8,860 m ²	2,792 m ²	6,793 m ²	
平城宮跡	1,010,674	7,811	10,838	土地……文部省所管 建物……平城資料館及び覆屋
藤原宮跡	251,740			土地 文部省所管 245,586 m ² 民有地借上 6,154 m ²
飛鳥資料館	17,092	1,465	2,682	
旧米谷家住宅	298	190	213	民有地借上 重要文化財
旧春日野庁舎	5,126	847	1,079	
宿舎	1,654	334	378	
飛鳥資料館 郡山	1,343 311	225 109	225 153	土地 231 m ² 大蔵省所管を含む
合 計	1,295,444	13,439	21,777	



本館配置図

事 業

建造物研究室

建造物及び伝統的建造物群に関する
調査研究とその結果の公表を行う。



建 造 物 の 調 査

歴史研究室

考古、史跡及び古社寺等に伝存する古文書、典籍等歴史資料に関する調査研究とその結果の公表を行う。



古 文 書 等 の 調 査

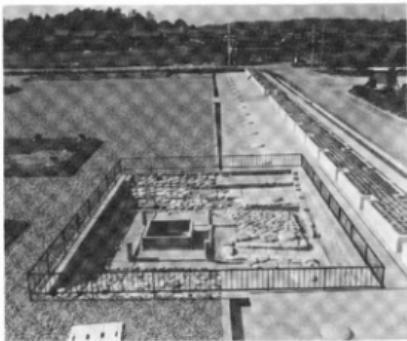
平城宮跡発掘調査部

奈良時代70余年の帝都として栄えた平城宮跡等の発掘、調査研究を行うとともに出土した木器・金属・土器・瓦・木簡・遺構等の保存整理・遺構の計測・修景及びこれらに関する調査研究並びに史料の収集及び調査研究とこれらの結果の公表を行う。

さらに発掘調査済の地域等について、遺構そのものが理解しやすいように修景整備し、あるいは遺構、遺物等を展示する等して一般に公開している。



平城宮跡 全景



発掘された奈良時代の石井戸とその復元露出展示

飛鳥藤原宮跡発掘調査部

日本で初めて律令国家体制が形成され飛鳥文化が開化した時代の中心的地域である藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡の発掘、調査研究を行うとともに、出土した木器・金属・土器・瓦・木簡・造構等の保存整理・遺構の計測・修景及びこれらに関する調査研究並びに史料の収集及び調査研究とこれらの結果の公表を行う。



藤原宮跡大極殿周辺（左上方は天香久山）



飛鳥水落遺跡(溝刻台造構内部にすえられた礎石)



出土遺物の整理



土器の復原

飛鳥資料館

飛鳥地域に関する考古資料、歴史資料、建造物、絵画、彫刻その他の資料を収集保管し、調査研究するとともに、飛鳥地域の歴史的意義及び文化財に関し、一般の理解を深めるためこれらを展示して公衆の観覧に供している。



飛鳥資料館全景



石人像（重要文化財）
飛鳥時代の庭園に使われた埴水



高松塚から出土した飾金具と鏡（重要文化財）

埋蔵文化財センター

埋蔵文化財に関し、調査研究及びその結果の公表を行うとともに、埋蔵文化財の調査、保存整理に関し、地方公共団体等の求めに応じ、専門的、技術的な指導・助言を、また埋蔵文化財に関する情報資料の作成、収集、整理、保管並びに調査研究を行い、これらについても広く地方公共団体等の利用に供している。

さらに、埋蔵文化財の調査、保存整理に関し、地方公共団体の職員等に対し技術的な研修を行っており、研修の主な課程は次のとおりであり、昭和56年度までの受講者累計は1,118名である。

区分	課程	区分	課程
一般研修	一般課程	専門研修	遺跡測量応用課程
専門研修	遺跡保存整備課程	"	環境考古課程
"	先編文時代調査課程	"	遺物保存科学課程
"	陶磁器調査課程	特別研修	埋蔵文化財基礎課程
"	集落遺跡調査課程	"	特別調査技術課程
"	遺跡測量基礎課程		



研修風景



データー伝送装置 埋蔵文化財関係資料の
情報処理を行う。



P.E.G含浸装置 ポリエチレングリコールを使用し、木材、木器等を永久保存するための処理装置



写真測量図化機 ステレオメトリックグラフE型を
使用して実測図を作成する。

普及活動

(1) 公開講演会

調査研究の結果を一般に公表する一端として毎年春と秋に行っており、最近の講演は次のとおりである。

講演回数	演題	講演回数	演題
47回 (55.5.24)	軒瓦製作技法に関する二三の問題 東大寺文書の起居文について	49回 (56.5.30)	近世大和における町人地の形成課程 いわゆる忍冬唐草紋について—法隆寺式
48回 (55.11.15)	C.J. Thomsen の再評価 平城京と京東条理	50回 (56.11.7)	軒平瓦の紋様を中心として 古代造瓦技術に関する一考察 古代の造物修造技法

(2) 現地説明会

発掘調査を行った現地を一般に公開し、調査研究の成果を公表している。

説明会年月日	発掘調査場所	説明会年月日	発掘調査場所
55. 5.31	平城宮跡第122次	56. 8.22	平城宮跡第132次
7.19	藤原宮跡第29次	9.26	松隈寺跡
9.13	松隈寺跡	10.17	大官大寺跡8次
9.27	平城宮跡第126次	11.14	石神遺跡・水落遺跡
11.22	平城宮跡第127次	11.28	平城宮跡第133次
56. 3.14	平城宮跡第128次	57. 2.20	水落遺跡
6. 6	平城宮跡第129次	3.20	平城宮跡第136次
8. 8	藤原宮跡第34次		

(3) 刊行物

イ、学報

年度	名 称	年度	名 称
1954	第1冊 仏跡発掘の研究	1973	第22冊 研究論集Ⅱ
	第2冊 修学院殿の復原的研究	1974	第23冊 平城宮発掘調査報告Ⅵ 平城京左京一条三坊の調査
1955	第3冊 文化史論叢		第24冊 高山一町並調査報告
1956	第4冊 奈良時代僧房の研究	1975	第25冊 平城京左京三條二坊
1957	第5冊 飛鳥寺発掘調査報告		第26冊 平城宮発掘調査報告Ⅶ
1958	第6冊 中世庭園文化史		第27冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅰ
	第7冊 興福寺食堂発掘調査報告		第28冊 研究論集Ⅲ
1959	第8冊 文化史論叢Ⅱ		第29冊 木曾奈良井一町並調査報告
	第9冊 川原寺発掘調査報告		第30冊 五条一町並調査の記録
1960	第10冊 平城宮跡・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告	1976	第31冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅱ
1961	第11冊 院内建築の研究	1977	第32冊 研究論集Ⅳ
1962	第12冊 巧匠安阿弥陀供養		第33冊 イタリア中部の一山岳集落における
	第13冊 瓦殿造系庭園の立地的考察		民家調査報告
	第14冊 レースと金龜舍利塔に関する研究		第34冊 平城宮発掘調査報告Ⅸ
	第15冊 平城宮発掘調査報告Ⅱ 官衙地域の調査	1978	第35冊 研究論集Ⅴ
1963	第16冊 平城宮発掘調査報告Ⅲ 内裏地域の調査		第36冊 平城宮整備調査報告Ⅰ
1965	第17冊 平城宮発掘調査報告Ⅳ 宮衙地域の調査		第37冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅲ
	第18冊 小堀遠州の作事	1979	第38冊 研究論集Ⅵ
1967	第19冊 藤原氏の氏寺とその院家		第39冊 平城宮発掘調査報告Ⅹ
1969	第20冊 名物製の成立		
1971	第21冊 研究論集 I		

口、史 料

年度	名 称	年度	名 称
1954	第1冊 南無阿弥陀仏作菩薩 (復製)	1976	第11冊 日本美術院彫刻等修理記録Ⅲ
1955	第2冊 西大寺觀音造記集成	1977	第12冊 藤原宮木簡 I 圖版・解説
1963	第3冊 仁和寺史料 寺誌編 I	1978	第13冊 日本美術院彫刻等修理記録IV
1964	第4冊 後承坊重源史料集成	1979	第14冊 日本美術院彫刻等修理記録V
1966	第5冊 平城宮木簡 1 圖版	1980	第15冊 東大寺文書目録第1卷
1967	第6冊 仁和寺史料 寺誌編 2	1979	第16冊 日本美術院彫刻等修理記録VI
1969	第7冊 平城宮木簡 1 解説 (別冊)	1979	第17冊 平城宮木簡 3 圖版・解説
1970	第7冊 唐招提寺史料 I	1980	第18冊 藤原宮木簡 2 圖版・解説
1974	第8冊 平城宮木簡 2 圖版・解説	1980	第19冊 東大寺文書目録第2卷
1975	第9冊 日本美術院彫刻等修理記録 I	1980	第20冊 日本美術院彫刻等修理記録VII
1975	第10冊 日本美術院彫刻等修理記録 II		第21冊 東大寺文書目録第3卷

八、飛鳥資料館図録

二、基準資料

年度	名 称	年度	名 称
1976	第1冊 飛鳥白鳳の在銘金銅仏	1973	第1冊 瓦編 1 解説
	第2冊 飛鳥白鳳の在銘金銅仏 銘文篇	1974	第2冊 瓦編 2 解説
1977	第3冊 日本古代の墓誌	1975	第3冊 瓦編 3
1978	第4冊 日本古代の墓誌 銘文篇	1976	第4冊 瓦編 4
	第5冊 古代の誕生石	1978	第5冊 瓦編 5
1979	第6冊 飛鳥時代の古墳一高松塚とその周辺	1979	第6冊 瓦編 6
1980	第7冊 日本古代の鶴尾	1980	第7冊 瓦編 7
		1980	第8冊 瓦編 8

ホ、地 図 (大梯尺図、縮尺1:1,000航空写真より図化)

区 分	図化面数	國 化 地 域
平 城 京 地 域	63	押熊、桑原、中山、外山、赤井谷、渡谷、眉列、秋篠、山陵、西畠、歌姫、コナベ、ウツナベ、野神、西大寺、平城京(仁和寺)、法華寺、不退寺、佐保、法蓮、東大寺(仁和寺)、宝來、普照、尼ヶ辻、北新、田村、藏ノ町、三条、興福寺、春日野、平松、唐招提寺、六条、柏木、八島田、人安寺(仁和寺)、京終、元興寺、紀寺、大池、栗飯寺、西ノ京、杏、八条、神殿、討塚、大職冠、西市、観音寺、羅城門、西九条、東九条、北永井、登板、野垣内、下三橋、上三橋、北ノ庄、今市、常解
下ツ道 地域	46	大師、若槻、美濃庄、井戸野、池田、歳之庄、番条、中条、菟志院、馬司、伊豆七条、南八条、中、宮堂、二階堂、西堀幡、嘉禰、庵治、溝幡、石見、唐古、八尾、健、印原本、阪手、南阪手、秦ノ庄、多、笠縫、新川、西垣内、額田郡、額田郡北方、陣田北垣内、穴闇、長楽、保田、唐院、沢、大野、小柳、大場、乙木一、乙木二、竹之内、佐保庄
飛 鳥 藤 原 地 域	38	耳成山、今井(仁和寺)、小房、鷦鷯、高殿北郡、膳夫、木殿、飛彈、高殿、天香久山、久米寺、丈六、田中、雷、奥山、山田寺、益田池、見郷、和田、豊浦、飛鳥寺、八角、越、野口、立部、橘寺、岡寺(仁和寺)、真弓、桧前、上平田、祝戸、坂田、觀覚寺、栗原、大根田、東常門
計	147	その他、編集図(縮尺1:2,000) 平城宮跡、藤原宮跡、藤原京(仁和寺)、五条野、飛鳥、若狭莊、池田莊、小東莊、乙木莊

へ、年報

1958～1981毎年1冊 計24冊

ト、埋蔵文化財ニュース

1975～1981毎年数冊 計37冊

蔵書及び資料**蔵書**

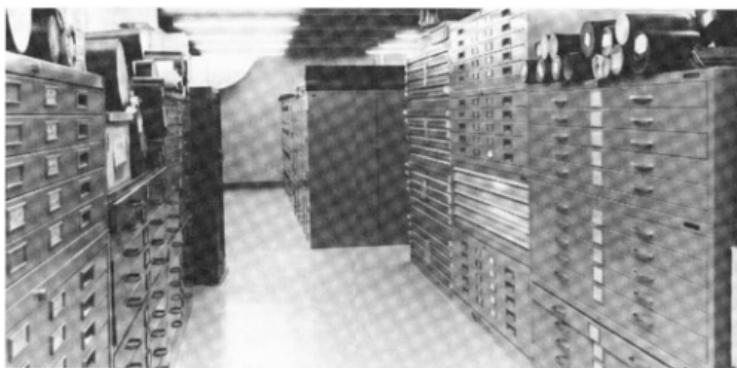
60,472冊(昭和56年度末現在)

区分	種別	購入	寄贈	計
56年度	和漢書 洋書	1,728 195	3,202 48	4,930 243
累計	和漢書 洋書	30,551 3,505	25,866 550	56,417 4,055

資料

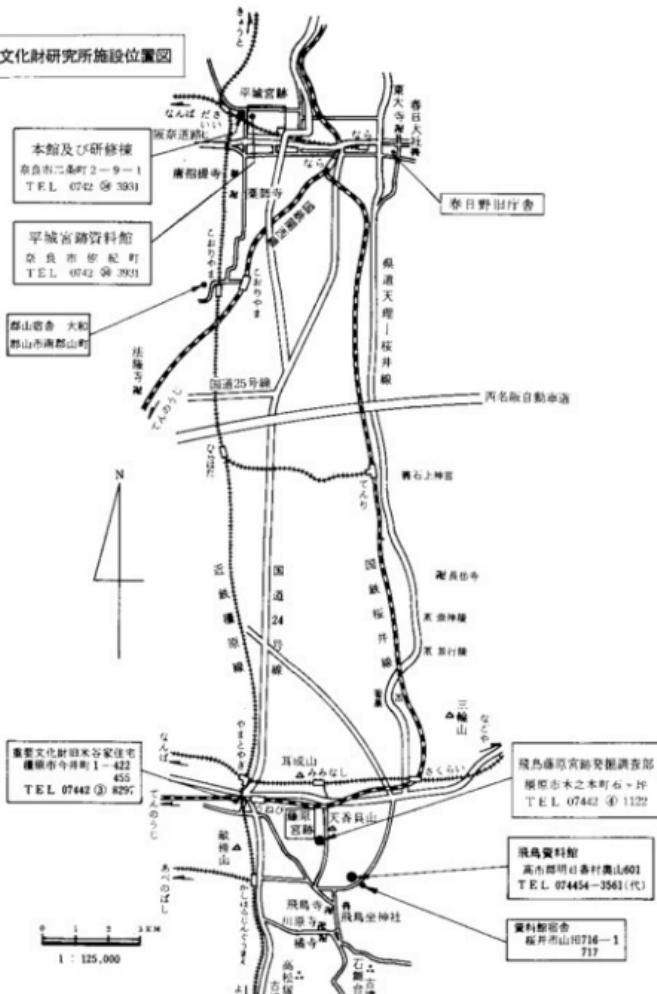
223,087点(昭和56年度末現在)

区分	キヤビネ	スライド	ライカ	プロニー	マイクロ フィルム	その他	計
56年度	5,332	7,168	3,965	1,994	80	209	18,748
累計	74,248	60,906	42,515	25,968	1,723	17,727	223,087



第三書庫 地図、実測図、拓本、航空写真ロールネガなどを保管

奈良国立文化財研究所施設位置図



飛鳥藤原京・平城京関係略年表

西暦	年次・年号	事項	西暦	年次・年号	事項
538	宣化 3	仏教伝来	710	和銅 3	平城京に遷都。興福寺創建
588	崇峻 1	飛鳥寺を造り始める	711	4	大宮大寺焼失
593	推古 1	推古天皇豐浦宮に即位	716	靈亀 2	入安寺移建
601	9	聖德太子鹿鳴宮を造る(夢殿の地)	718	養老 2	藥師寺・元興寺移建
603	11	小鹽田河に遷る	730	大平 2	要麻寺東塔建立
606	14	坂田寺を造る	739	11	法隆寺夢殿、伝法堂建立
607	15	法隆寺創建	740	12	轄仁京に遷都。平城大極殿等を遷ぶ
630	舒明 2	飛鳥岡本宮に遷る	744	16	難波の宮を都とする
636	8	飛鳥岡本宮焼失、田中宮に遷る	745	17	平城京に遷都。法華寺創建
639	11	大官大寺を造り始める	752	天平 4 勝宝	東大寺大仏開眼供養
640	12	百濟宮に遷る	755	7	平城宮改作
641	13	山田寺を造り始める	756	8	聖武天皇77忌に遣品を東大寺等に納める(正倉院の始まり)
642	皇極 1	小鹽田宮に遷る			
643	2	飛鳥板蓋宮に遷る	759	天平 3 宝字	唐招提寺創建。平城宮東朝集殿を唐招提寺に施入
645	大化 1	難波長柄蓋倚宮に遷る		5	平城宮改作
653	白雉 4	中大兄皇子・皇極等と飛鳥河辺行宮に遷る	761	天平 1 神護	西大寺創建
655	齊明 1	飛鳥板蓋宮焼失、川原宮に遷る	765	神護 1 景雲	西隆寺創建。東院玉殿完成
656	2	飛鳥岡本宮に遷る	767		
667	天智 6	近江大津宮に遷る		延暦 3	長岡京に遷都
670	9	法隆寺焼失	784		
672	天武 1	飛鳥淨御原宮に遷る	794	13	平安京に遷都
680	9	藥師寺を興す。橘寺焼失			
691	持統 5	藤原京地鎮祭			
694	8	藤原宮に遷都			

(裏表紙写真) 鬼面文鬼瓦

平城宮の推定第二次内裏西外郭から出土した鬼面の鬼瓦。高さ約40cmあり、平城宮で最大の鬼瓦。天半年間に造営された内裏地域の建物の屋根を飾った。

奈良国立文化財研究所概要

発行日 昭和57年6月1日
発行 奈良国立文化財研究所

